

こんにちは 日本共産党議員団です

＜令和8年3月定例会特集＞2026年4月号
【発行】日本共産党市会議員団
連絡先 FAX：75-4558（小西）



物価高で、くらしも営業も厳しい時だからこそ 28議案に賛成し、10議案に反対しました

第1号議案のほか反対した主な議案

●第6号、23号及び10号議案「国保」及び「後期高齢予算」と条例改正

国保料は4年連続の値上げ。「子ども・子育て支援費」を保険料から徴収するもので、加入者の新たな負担となることから反対。国費で措置すべきと主張。

●第9号及び第28号議案「介護保険事業会計予算」と条例改正

市独自に人材確保策があるが、「保険あって介護なし」の状況であり反対。

●第3号議案「舞鶴市水道事業会計予算」

水道事業を北部5市2町でより広域化し、民間委託を進めることから反対。

●第26号議案「こども誰でも通園制度」に伴う条例改正

条件整備が不十分で、市の公的責任があいまいなことから反対。

●第29号及び35号議案「赤れんが6号棟保存修理工事」

保存修理だけで1棟当たり13.3億円。さらに予算が膨らむことから反対。



◆党議員団「イスラエルとアメリカによる

イランへの武力攻撃を避難する決議」を提案◆

さる2月28に開始されたイスラエルとアメリカによる、イランへの先制攻撃は、いかなる理由があろうとも断じて許されない。明らかな国際法と国連憲章違反の行為であることから、党議員団として「非難決議」を提案しましたが、党議員団をのぞくすべての会派の同意にいたらず、不採択となりました。



令和8年度一般会計予算額は420億3,967万円、令和7年度当初予算比で約15、4億円、3、8%の増となっており、市制施行以来、過去最大規模の予算となっている。

喫緊の課題である福祉分野の人材確保のための「まいる福祉人材未来プロジェクト事業」、既に通年で無償化を実施している中学校に続き、令和7年度3学期から無償化した小学校給食についても8年度から通年で実施し、小・中学校における「通年での完全無償化」を実現する「学校給食費無償化事業」、エネルギー・食料品価格等の物価高騰の影響を受けている市民や事業者を幅広く支援するため、水道基本料金の6カ月分を無料とする「水道基本料金無料事業」「公営住宅エアコン設置事業」等の事業化は、我が会派も従前から強く求めてきたことでもあり、暮らしに密着した事業が具体化されたものと評価し、市民からも歓迎されるものと考えます。



一方で、一般会計予算は、かねてから税金の使い方に問題があるとして中止を求めてきた「赤れんが周辺等まちづくり事業」が引き続き予算化されていること。

2点目に「自衛官募集事務経費」。令和7年度も、高校生、大学生の合計1,413名の名簿を紙媒体で提供された。拒否申請を受け付け、せめて住民基本台帳の閲覧とすべき。

3点目は、「整備新幹線誘致推進費」。新しく340万円の予算で、年内に必ず取りに行くという姿勢は看過できない。

新幹線誘致よりも、在来線の充実こそ力を入れるべき。

4点目は、3款民生費の「乳児等通園支援事業」。国の「こども誰でも通園制度」の実施に向け、実施する民間の認可事業所に対する支援の事業。保育の質の確保の問題。市の公的責任があいまいだという問題がある。保護者の就労に関わらず希望するすべての保育を保証すべき。

5点目は、「舞鶴市統一学力診断テスト」の実施。テスト学力中心の教育を進めることになり、ゆとりのある教育に逆行することから廃止を求める。

以上5点の理由で一般会計予算に反対する。



くらし密着の事業は市民も歓迎

新幹線誘致、赤れんが周辺開発など不要不急の事業より
暮らし・福祉・教育の充実に要望しました

不要不急の事業とムダな事業は中止を



【第1号議案】令和8年度一般会計予算への反対討論



基地の拡大・増強の住民説明会を 一般質問 小西 洋一 議員

小西 舞鶴基地所属の2隻のイージス艦にトマホークミサイルが配備される。「専守防衛」から「先制攻撃」できる「自衛隊」へ変わる。事実上の憲法9条の「死文化」だ。そのために4棟の弾薬庫の増設が計画され、さらに、徹底抗戦のために、総監部の「地下化」まで計画されている。市民の不安も広がっていることから、近畿中部防衛局による全市民対象の説明会を開催すべきではないか。

市長答弁 工事の施工による地域への影響など、近隣自治会に対して事前にしっかりと説明するよう、市から近畿中部防衛局に求めている。防衛施設の整備計画の内容は国の専管事項。説明会の開催を求める考えはない。

市内で完結する医療体制はできるのか？！

小西 市は、2月の「広報」で、市内4病院の再編が実現すると「これまで各病院に分散していた医師や看護師などのスタッフ、専門的な設備などが集結し、救急医療体制をはじめとする病院の対応力が高まり、より充実した環境で診察や治療を受けられるようになる」と説明。ベッド数を減らせば、医師や看護師、診療科も減ると考えるがどうか。

市長答弁 医療の高度化が進む現代では、希少な症例を含むすべての疾患を一つの市で完結する考え方は、もはや現実的ではない。京都府の保健医療計画に基づく医療圏の考え方に則り、圏域全体で機能を分担し、広域で市民の命を守り抜くことが次世代に責任を持つ医療の姿。

積算単価を公表すべきでは？！

小西 京都府下15市を調査したところ、本市以外のすべての自治体が工事設計書の積算単価を公表している。市長の決断を求めるがどうか。



市長答弁 時代の変化に対応した入札制度の改善は、建設業の安定的な存続に不可欠である。協会からも強い要請を受けており、積算単価の公表について、庁内で座組を作っており、今後慎重に検討していく。

国保料4年連続の値上げ！

国保加入者の負担軽減を！

一般質問 小杉 悦子 議員



小杉 国民健康保険料の値上げが全国の自治体で広がっている。背景には、2018年度から始まった「国保の都道府県化」（運営も保険料の京都府で一本化）がある。本市も令和5年から4年連続値上げ。2026年度予算案では127,840円となっており、7年度に比べ8.5%アップの100,000円も引き上げの提案。新たに子ども子育て支援金を18歳以上の国民に健康保険の仕組みで徴収するというのは、新たな税金の発生だ。物価高騰で暮らしが困難な時、国保料の引き上げは追い打ちをかけるもので、認めることはできない。市の認識を問う。

市の答弁 国保財政は加入者の減少や医療給付費の増加、基金の減少などから、今後も厳しい状況が予想され、保険料水準の統一は必要な取り組み。保険料については医療費の高額化や加入者の減少などにより今後も増加するものと考えている。今後とも引き続き国保財政に対する国庫負担の引上げ等について「全国市長会」「近畿都市国民健康保険者協会」において要望していく。



スクールランチ方式見直し あたたかくおいしい給食 一般質問 伊田 悦子 議員

伊田 子どもたちが喜ぶ「温かくておいしい」給食のためにも、中学校でのスクールランチ方式の給食提供は見直すべき。以前提案した親子方式も含め検討を求める。



除雪対策の充実を

伊田 今回の大雪で、市民生活は大きな影響を受けた。自治体によっても、自治会・町内会・地域共助組織や個人に対して、小型除雪機購入補助金がある。そのような補助金の制度をつくることに対する市の見解は。

市の答弁 自治会へは、小型除雪機を燃料など経費も含めて無償貸与している。購入補助金については、現在考えていない。



認可外保育園へ補助を

伊田 認可外であっても、本市の大事な保育資源との認識はあるのか。あるとすれば、認可外保育施設へ恒常的に運営面に対する補助を市、支えるべき。綾部市では「認可外健全育成活動補助金」が創設されており、認可外園に、子ども一人当たり5000円の補助金がある。

市の答弁 それぞれの特性を生かし保育を展開されており、しっかりと子供の育ちをサポートしていただいていると認識している。すべての保育者の専門性の維持・向上への研修に取り組んでいる。市独自の施設運営に係る財政的な支援は考えていない。

保育の質の確保で、安心の保育体制を

伊田 こども誰でも通園制度が4月から本格実施。この制度では、子どもの安全性が危惧される。事故時の公的責任が不明確になる可能性があるなど問題がある。保育の質を確保するための抜本的な見直しが必要。保育士の確保など根本的な環境改善がセットで求められている。市の見解は。

市の答弁 保育士の確保や職員の負担軽減が必要と認識。実施事業者に対し、ICT化を支援することにより職員の負担軽減を図る。

重度障害者が身近な地域で 安心して暮らせる場の確保を



小杉 「重度障害者は舞鶴では暮らす場の保障がされていない」ととても日中の活動の場がないのでは」と保護者の方などの不安の声がある。第4期障害者計画での「医療的ケアが必要な人が身近な地域で安心して生活ができる暮らしの場」の現在の進捗状況はどうか。医療的ケアを受けながら生活の場は医療が不可欠。医療再編議論が進められている今こそ、具体的にこの計画が動くことを求めるもの。重度障害者やその家族から待ち焦がれられている支援事業だ。市の取組の今後の具体化について問う。

市の答弁 市内18歳以上の障害のある方で、人工呼吸器装着で専門的な支援を必要とする方2名、家族介護が主軸で居宅介護・訪問看護などで、生活の安定と介護負担の軽減が図られている。子ども療育センターに1名、市外の5施設に16名（府内1、府外1施設）の利用。中丹圏域自立支援協議会で、支援体制の整備に向けて協議を重ねているところと認識している。